

明治二十一年

(二月)

一月一日

暁起、一家恙なく**淑酒**雑煮を祝ひ、今日之喜び限りなし。早朝より賀客続々来。八日開校之招待状五百軒配達ス。

\*淑酒(椒酒)

(二月) 二日

川村氏、田村氏、西村氏、原氏、米倉氏を招きて、食堂開きをなす。東陽軒洋食を饗す。

(二月) 七日

開校前日。其繁雑言へからず。諸職工百人余、校内外装飾、夜十二時漸落成ス。

(二月) 八日 日曜 天晴朗。

開校式。講堂玄関入口及毎室に釣灯籠をかゝぐ。すへて緑葉に薔薇花を挿み、第一室請附所、第二化粧室、第三委員詰所、楼上客室、塾楼上楼下、生徒之室となし、庭園運動場に式場を設け、数百之椅子、前面皇族方をはじめ貴顕紳士、左之側に数百之椅子に令嬢たちを。午後一時より式はしまる。

第一、校長新築趣旨書を読む。

第二、三条内大臣祝文御朗誦。

第三、三条智恵子君生徒惣代之祝文御朗誦。

第四、サンマルス英語祝文。

第五、平尾竹子和文祝詞ヲ。

第六、中村敬宇氏演説。式全畢。

食堂を二ヶ所に設け、近衛軍楽二小隊奏樂。御来臨皇族方、伏見貞愛親王、同妃信宮、小松親王、同妃依君、同篤宮女王、北白川宮、同妃光君、三条内大臣、同夫人、土方宮内大臣、佐々木宮内顧問官及夫人、女官早蕨典侍、藤袴内侍、命婦一人、鍋島式部長、同夫人、花房子、同夫人等。其外、華族京浜貴女紳士無慮千余人也。五時、式全畢。

夜二入て軽便電気、紅灯、提灯、講堂及数千をかゝぐ。紅灯星の如く、また昼の如し。其盛大名状すへからず。実に家敵、家族の悦び、予の名誉極りなしと云。夜十時全畢。

(二月) 九日

大新聞、諸新聞、開校之景況掲載あり。

(二月十日～十二日、日記ナシ)

(二月) 十三日

授業始。英語、東三条公恭君、宇都宮平三氏、遠藤氏、レ、ン嬢。算術、松見文平氏。国学、鈴木弘恭氏。国漢学、渡辺重石丸氏。裁縫、千代滝。音楽、山登松齡。点茶、插花、父重敬。

(二月十四日～三十一日、日記ナシ)

(二月)

二月(以下、記述ナシ)

(以下、日記ナシ)